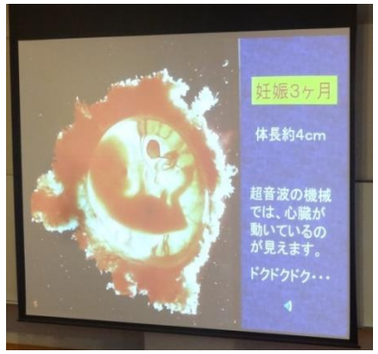
2学年
「性に関する指導～誰かを好きになるということ～」

平成 28 年 12 月 15 日（木）

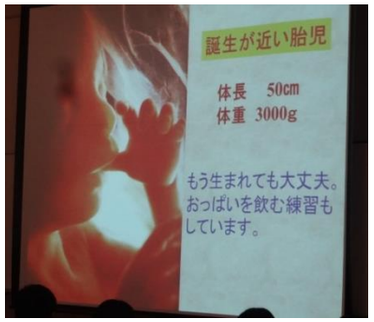
ハッピーバース研究会 木村裕美 先生（県立釜石病院　助産師）を講師にお招きして、ご自身の経験や、病院に勤務していての実体験をもとに性に関する貴重なお話をしていただきました。

生命の神秘　～280日の旅～

男性の持つ命のもと「精子」と、女性の持つ命のもと「卵子」が出会い、受精卵となり、徐々に徐々にお母さんのお腹から生まれる準備が始まります。



妊娠３ヶ月の胎児の心臓の音を聞かせてもらいました。わたしたちの心臓より、遥かに速く動いています。こんなに小さい体でも一生懸命生きようとしているのが伝わってきます。

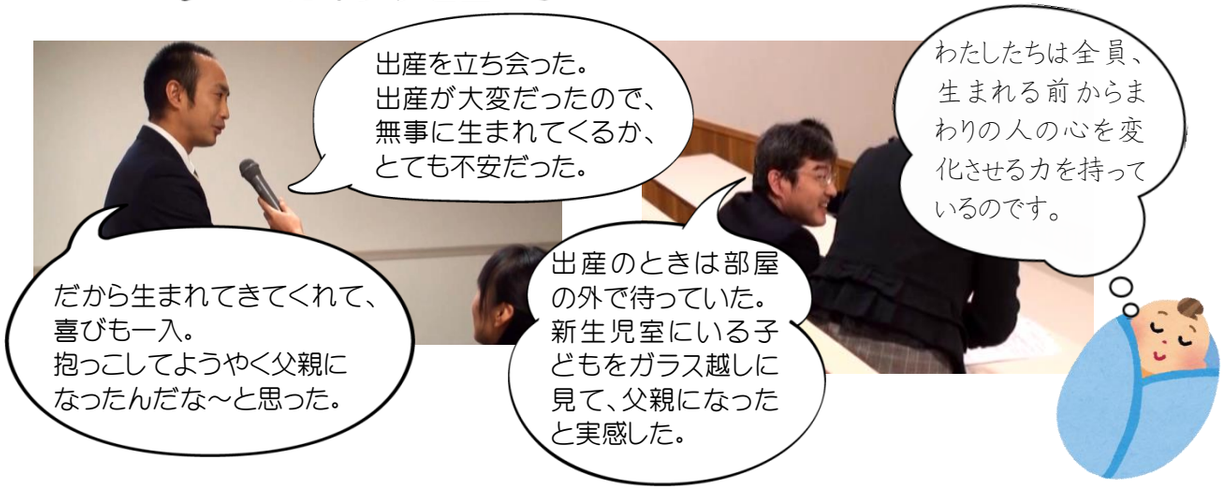


お母さんのおなかの中にいるときから、もうすでにおっぱいを飲む練習を始めています。

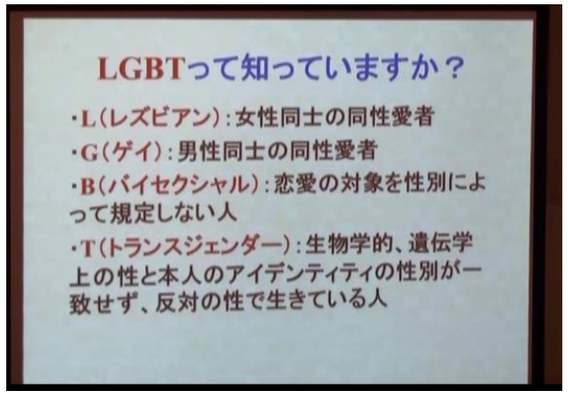
生きる上で、栄養をとることはとても大事なこと。練習をきちんとしているからこそ、生まれてきてからしっかりお母さんのおっぱいを飲むことができるのですね。

男性職員 お父さん にインタビュー

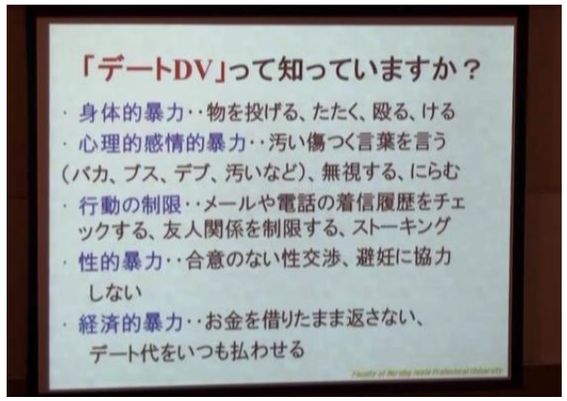
赤ちゃんを産むのは女性。
では、相手の男性は"いつ"、父親になったことを自覚するのでしょうか？



人それぞれの愛のかたち　～大切なあなた～



誰を愛するかは、その人の自由であり、人間として尊重されるべき権利です。１人で自分の性について悩んでいる人がいるかもしれませんが、何も間違っていません。自分の気持ちを大切に。



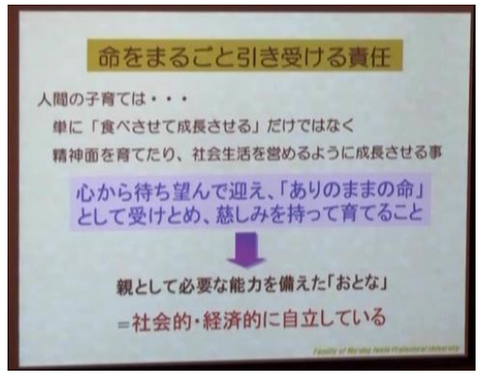
愛し方は人それぞれだけど、その"愛"でパートナーを傷つけてはいませんか？嫌なことをＮｏ！と言えない、２人が対等な関係ではない、どちらかが嫌な気持ちとなっている…デートＤＶしていませんか？されていませんか？

誰かを愛するということは、楽しいことばかりではありません。

性感染症や望まない妊娠、性的暴力・性被害などの性のトラブルがあることも理解していなくてはなりません。

例えば、
妊　娠
新しい命を授かること
とてもステキなこと

だけど、
今妊娠したら…？
産む？育てる？
受け入れられる？



相手の心に「無関心」、相手のからだに「無関心」、相手の未来に「無関心」

「愛する」の反対側にある「無関心」はとても寂しくて悲しい言葉です。
あなたはあなたしかいません。できるかたちで自分を大事にしてください。

生徒の感想

・「生」については、両親や周囲の大人がいて、今生きられているということを改めて実感することができた。「性」については、今まで恥ずかしいと思い、自分から知ろうとしたくなかったけど、生きていく上でとても大事な知識の一つだということを知ることができた。

・女性のことをしっかりと考えて行動できる男になりたいと思った。